

【共に生きるパートナー】

沖縄県 那覇市立小緑中学校

二年

仲地 芽依 なかし めい

私達が生きていく中で生命を支え、生活と共にあるもの一つとして、「水」が挙げられると私は思います。水は飲むことだけでなく、食べ物の調理に使ったり、洗濯やお風呂、トイレなど、日常生活を送るにあたってなくてはならないものです。私が住む沖縄県には大きなダムや山の中を流れる川、エメラルドグリーン^①の海といった独特の風景があつて、その風景もまた、水の恵みを受けているのだと感じます。

これまでの私の体験の中で、特に水の大切さを実感した出来事があります。それは、真夏の登下校です。私はいつも学校に水筒を持参し、授業間の休憩でも頻繁に水を飲みます。しかし水筒を忘れてしまった時、水を飲むことができず登下校時の暑さがいつもより厳しく感じ、とても苦しかったことがあります。この体験があつて、私達が毎年厳しい暑さを乗り越えられるのも、気持ちよく運動することができることも含め、私達が快適で健康的な生活を送るには水がとて大切だということ強く実感しました。

さらに、毎年起こっている熱中症による事故も水分を十分に取ることで防ぐことが可能なので、水はこれからさらに活躍して私達の生活を豊かなものにしてくれるのではないかとという期待をすることもできます。

しかし、水は生活を支えている一方で、時には私達の生命や生活を脅かすこともあります。今年の夏にあった九州地方での集中豪雨のように、自然災害が猛威を振るい、多くの死傷者を出すなど、水による災害や事故で重大な被害を受ける人々がいるという現状を世界中が抱えています。

水も自然の一部です。自然はとて雄大でかつ人間にとつて大切なものですが常に生活を支えているというわけではありません。台風や豪雨などの気象災害は土砂災害を引き起こし、地震の二次災害として発生する津波は広い範囲の建物を壊して奪い去ります。水はとて大きな力を持っていて、自然が牙を向くと私達の命や生活は、一瞬にして失われてしまうのです。また、

水と十分に親しんでいるからこそ気持ちが緩むと水難事故などの悲しい事故が起きてしまいます。

水が関わる事故や災害のニュースを見て、私はこれまで水に対して強い恐怖心を持つていました。しかし、水は普段私達を支えていて、事故は自分で防ぐことができ、いつ発生するかが分からない自然災害も対策をとることができるのではないかと、次第に考えるようになりました。

例えば、水難事故に対しては遊泳禁止の場所で泳がない、天気の良い日は泳ぐのを避けるというような、人の意識によつて防ぐことができると思います。自然災害は、発生予測はできないけれど、「もしも災害が起きたら」と日頃から備えて正しい知識を身に付けておくことで、災害時に安全な行動をとつて被害を防ぐことが可能です。

私の住んでいる沖縄県には毎年のように台風が来ます。しかし、一人一人が自主的に知識を身に付け、家庭や学校、地域で安全対策を行っているため、重大な被害が及ぶのを防ぐことができます。

日本は水に恵まれた国で、生活を振り返り周りを見渡すと、そこには水があります。生物や植物は常に水と共に生きていて、水に生命や生活を支えてもらっています。

水は、私達と一生を共にする、パートナーだと私は思います。時には水によつて被害を受けることもあるけれど、人間と水は共に関わり合っています。

これからは、さらに人間が水に関心を持ち、自然と共に、豊かに生きることでできる社会を目指していきたいです。